

2017年3月期 第3四半期決算報告

2017/2/14

第一生命ホールディングス株式会社



Dai-ichi Life
Holdings

- 第一生命の稲垣です。
- 本日は、第一生命グループの2017年3月期第3四半期の決算報告にご参加いただきまして、ありがとうございます。
- それでは、決算報告を行います。いつものように、私から資料に沿って決算内容についてご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。



- 当第3四半期累計の営業業績は、国内金利の上昇が限定的な中、国内生命保険事業では引き続き、一時払商品の販売を抑制。一方で、経営者向けの保障性商品や平準払商品の販売は良好に推移し、グループの新契約は前年同期比で増加。
- 第一生命の純利益は、金融環境の改善によりキャピタル損益が増加も、順ざやが減少し、通期予想に対して想定通りの進捗。連結純利益は、各社の運用収支改善、海外保険事業の利益貢献拡大に加え、一時的な利益押し上げ要因もあり、通期予想に対して高い進捗。
- 2016年12月末のグループ・エンベディッド・バリュー(試算値)は、株高と金利上昇の影響により約5.1兆円と9月末から増加。

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 第一に、営業業績についてお話しします。当四半期は、内外で金融環境が改善しましたが、国内金利は比較的緩やかな上昇にとどまったため、国内生命保険事業では一時払商品の販売抑制を継続しました。一方で、保障性商品への販売シフトに向けて投入した経営者向け商品や、平準払保険の販売は良好に推移し、グループ全体の新たな契約の増加をけん引しました。
- 第二に、純利益についてお話しします。第一生命では、金融環境の改善を背景にキャピタル損益が増加しましたが、主に上半期の円高により利息配当金収入が減少したことなどにより、想定通りの進捗となりました。連結では、グループ各社で運用収支が改善し、海外保険事業の利益貢献が拡大したことに加え、第一フロンティア生命の責任準備金の戻し入れや、アセットマネジメントOneの再編に関わる利益の計上など、一時的な利益押し上げ要因も加わった結果、親会社株主に帰属する純利益は通期予想に対して高い進捗となりました。
- 第三は、エンベディッド・バリューについてです。2016年12月末のグループ・エンベディッド・バリューの試算値は、株価の上昇と国内金利の上昇などにより、約5.1兆円と9月末から約6,900億円増加しました。
- 2ページをご覧ください。



- 連結経常収益は、低金利環境を踏まえた戦略的な販売抑制を行う中、通期予想に対して想定線
- 連結経常利益、親会社株主に帰属する純利益は、高い進捗

(億円)

	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計(a)	前年同期比		2016/11/14 発表予想(b)	進捗率(a/b)
連結経常収益	54,189	47,286	△6,902	△13%	62,770	75%
第一生命 ⁽¹⁾	31,038	29,591	△1,446	△5%	37,960	78%
連結経常利益	3,247	3,265	+18	+1%	4,060	80%
第一生命 ⁽¹⁾	2,367	2,322	△44	△2%	3,240	72%
連結純利益 ⁽²⁾	1,735	1,835	+99	+6%	1,970	93%
第一生命 ⁽¹⁾	1,055	1,017	△37	△4%	1,330	77%

(1) 持株会社体制への移行に伴い、第一生命の業績については、旧第一生命および第一生命分割準備会社の上半期業績と、現第一生命の第3四半期業績を単純合算した未監査の数値を記載しています。詳しくは29ページをご覧ください。

(2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を記載しています。

- 業績ハイライトをお示ししています。
- 連結経常収益は4兆7,286億円と前年同期比で13%の減少になりましたが、連結経常利益は同1%増の3,265億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同6%増の1,835億円となりました。
- 減収の要因は、一時払商品の販売抑制を継続したためです。経常利益・純利益の増加は、グループ各社で運用収支が改善し、海外保険事業の利益貢献が拡大したことに加え、冒頭お話した一時的要因があったためです。通期予想に対する進捗率は経常利益、純利益でそれぞれ80%、93%と、高い進捗になりました。
- 3ページをご覧ください。



連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

(億円)

	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	増減
経常収益	54,189	47,286	△6,902
保険料等収入	41,663	32,451	△9,211
資産運用収益	9,814	11,872	+2,058
うち利息・配当金等収入	7,892	7,869	△22
うち有価証券売却益	1,614	1,772	+157
うち特別勘定資産運用益	-	972	+972
その他経常収益	2,711	2,962	+250
経常費用	50,942	44,021	△6,920
うち保険金等支払金	28,763	26,412	△2,351
うち責任準備金等繰入額	10,569	7,262	△3,307
うち資産運用費用	3,837	2,569	△1,268
うち有価証券売却損	445	689	+244
うち有価証券評価損	32	116	+84
うち金融派生商品費用	452	310	△142
うち為替差損	1,119	586	△533
うち特別勘定資産運用損	509	-	△509
うち事業費	4,855	4,670	△184
経常利益	3,247	3,265	+18
特別利益	2	171	+169
特別損失	175	312	+136
契約者配当準備金繰入額	722	660	△61
税金等調整前四半期純利益	2,351	2,463	+112
法人税等合計	615	628	+13
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,735	1,835	+99

連結貸借対照表(要約)

(億円)

	16/3末	16/12末	増減
資産の部合計	499,249	511,791	+12,542
うち現預金・コール	9,603	11,371	+1,768
うち買入金銭債権	2,392	2,148	△244
うち有価証券	415,600	429,330	+13,729
うち貸付金	37,155	35,128	△2,026
うち有形固定資産	11,788	11,629	△158
うち繰延税金資産	13	0	△13
負債の部合計	469,919	481,143	+11,224
うち保険契約準備金	438,940	435,625	△3,314
うち責任準備金	429,225	426,531	△2,693
うち社債	4,856	9,054	+4,197
うちその他負債	14,866	23,164	+8,298
うち退職給付に係る負債	4,438	4,426	△12
うち価格変動準備金	1,552	1,692	+139
うち繰延税金負債	2,707	3,300	+593
純資産の部合計	29,329	30,647	+1,317
うち株主資本合計	11,292	12,543	+1,250
うちその他の包括利益累計額合計	18,026	18,091	+64
うちその他の有価証券評価差額金	18,400	19,907	+1,506
うち土地再評価差額金	△164	△190	△26

(1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません。

- 連結主要収支の詳細をご説明します。
- 経常収益は、保険料収入の減少により前年同期比約6,900億円の減収となりました。
- 経常費用も同約6,900億円減少しましたが、このうち保険金等支払金の約2,400億円の減少は、前年同期において、厚生年金基金の解散に伴う団体年金の多額の解約が発生していたためです。ただし、この影響は責任準備金を通じて相殺されるため、利益への影響はほとんどありません。責任準備金等繰入額の約3,300億円の減少は、一時払い商品の販売抑制によるものです。
- アセットマネジメントOneの再編に関わる持分変動利益が特別利益として約125億円計上されています。
- 以上のことから、親会社株主に帰属する当期純利益は、同約100億円増加しました。
- 4ページをご覧ください。



	国内生命保険事業 (億円)			海外保険事業 (億円)			その他事業 (億円)			連結 ⁽¹⁾ (億円)		
	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比
経常収益	46,266	38,286	△17%	8,148	9,286	+14%	244	216	△11%	54,189	47,286	△13%
セグメント利益	2,812	2,682	△5%	432	594	+38%	37	34	△9%	3,247	3,265	+1%

■ 経常収益: 一時払商品の販売を戦略的に抑制したため、保険料等収入が減少
 ■ セグメント利益: 第一フロンティア生命において変額保険の最低保証にかかる責任準備金の入繰りを抑制するためのヘッジ費用増加で減少

■ 経常収益: プロテクティブの連結期間が前年同期より1ヶ月長いことや、同社の資産運用収益が好調だったことで増加
 ■ セグメント利益: プロテクティブが買収した定期保険ブロックが利益貢献を開始したことや、同社の資産運用収支が好調だったことで増加

■ ジャナスの持分法利益が円高により減少したことや、第一生命情報システム(旧第一生命の子会社)を第3四半期より連結対象外としたことで減少

(1) 各セグメント利益の合計額と連結損益計算書上の経常利益の違いは、主に当社が計上した関係会社からの受取配当金を消去したことによるものです。

- セグメント別の業績はご覧の通りです。
- 持株会社体制への移行に伴い、国内生命保険事業、海外保険事業、そしてその他事業として主にアセットマネジメント事業の業績をお示ししています。
- 当第3四半期累計では、海外保険事業の利益貢献が拡大しました。
- 5ページをご覧ください。

第一生命グループ業績 - グループ各社の業績



Dai-ichi Life
Holdings

	【第一生命】 ⁽¹⁾			【第一フロンティア生命】			【米プロテクティブ】 ⁽²⁾		【豪TAL】 ⁽²⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万米ドル)		(百万豪ドル)			(億円)		
	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比	16/3期 3Q累計 (2-9月)	17/3期 3Q累計 (1-9月)	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比
経常収益	31,038	29,591	△5%	15,203	8,669	△43%	4,910	6,723	2,378	2,718	+14%	54,189	47,286	△13%
保険料等収入	21,009	18,937	△10%	14,517	7,238	△50%	3,373	3,973	2,229	2,473	+11%	41,663	32,451	△22%
資産運用収益	7,786	8,011	+3%	685	1,430	+109%	1,247	2,400	21	183	+738%	9,814	11,872	+21%
経常費用	28,671	27,268	△5%	14,704	8,265	△44%	4,633	6,249	2,249	2,559	+14%	50,942	44,021	△14%
保険金等支払金	20,060	17,180	△14%	3,942	4,215	+7%	2,910	3,540	1,440	1,690	+17%	28,763	26,412	△8%
責任準備金等繰入額	1,318	2,451	+86%	8,505	3,060	△64%	464	1,609	220	246	+12%	10,569	7,262	△31%
資産運用費用	1,796	1,762	△2%	1,427	541	△62%	605	348	47	32	△32%	3,837	2,569	△33%
事業費	2,959	3,087	+4%	743	404	△46%	498	581	459	504	+10%	4,855	4,670	△4%
経常利益	2,367	2,322	△2%	498	403	△19%	276	474	128	159	+24%	3,247	3,265	+1%
特別利益	2	46	+2,124%	--	--	--	0	0	--	--	--	2	171	+7,543%
特別損失	154	287	+86%	20	24	+18%	--	0	0	--	--	175	312	+78%
純利益 ⁽³⁾	1,055	1,017	△4%	434	337	△22%	187	320	99	113	+13%	1,735	1,835	+6%

(1) 持株会社体制移行に伴う第一生命の考え方につきましては、詳しくは28ページをご覧ください。

(2) 米プロテクティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。

連結の際には、それぞれ1米ドル=119.96円(16/3期3Q)、101.12円(17/3期3Q)、1豪ドル=87.92円(16/3期3Q)、84.36円(17/3期3Q)で円換算しています。

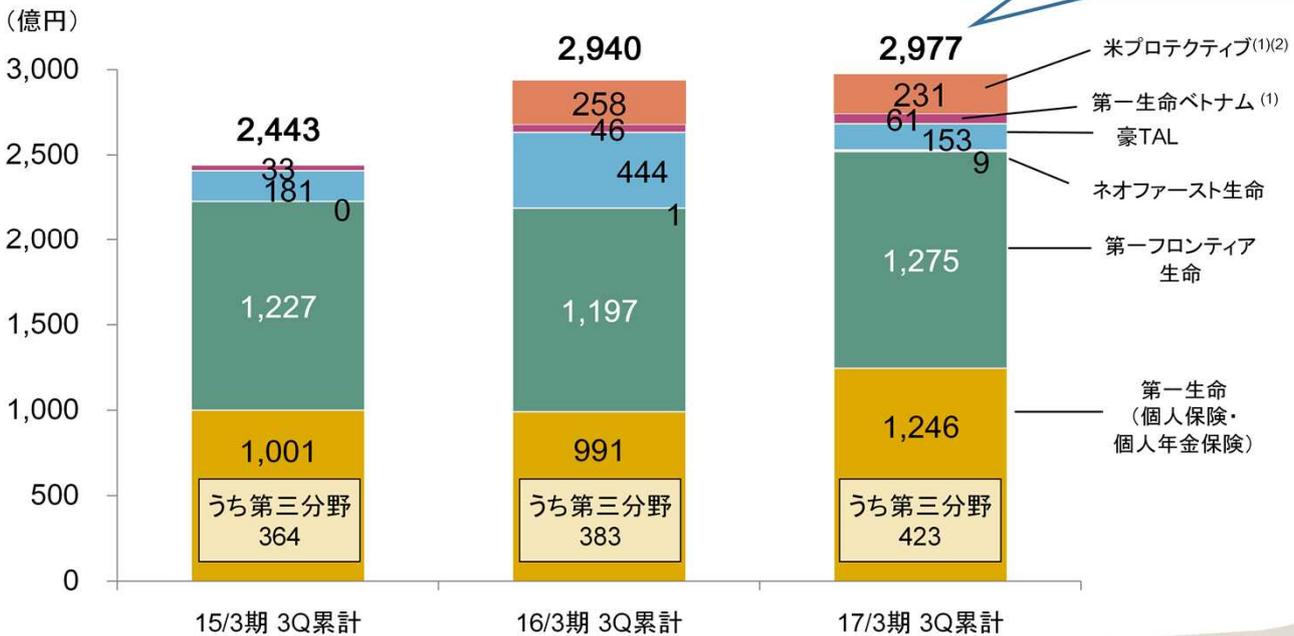
(3) 連結純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を記載しています。

■グループ各社の決算はご覧の通りです。

■6ページをご覧ください。



第一生命グループの新契約年換算保険料

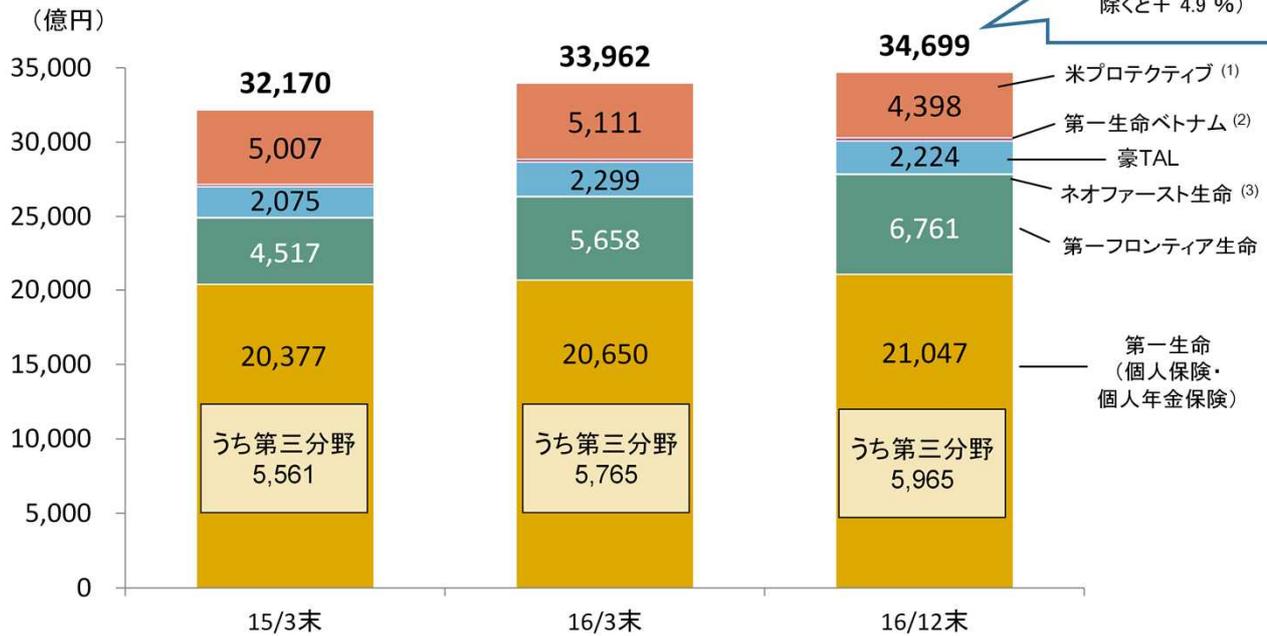


(1) 米プロテクトティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。
(2) 米プロテクトティブの実績は、16/3期3Q累計(8ヶ月間)、17/3期3Q累計(9ヶ月間)のみを記載しています。

- 新契約の動向についてご説明します。
- グラフは第一生命グループの新契約を年換算保険料で示しており、以下は全て年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命の新契約は、平準払いの貯蓄商品が牽引し、前年同期比25.7%の増加となりました。うち第三分野の新契約は、法人向け介護保障新商品の販売により、同10.6%増加しました。
- 第一フロンティア生命の新契約は、据置き期間の短い年金商品の販売が増加したため、同6.5%増加しました。
- プロテクトティブの新契約は、前年同期の8ヶ月間の実績に対して、現地通貨建てで増加しましたが、円高のため円建てでは減少しました。なお、プロテクトティブは決算期が3ヶ月ずれる関係で、9月末の為替レートを使用しています。
- TALの新契約は、前年同期に大口の団体契約を獲得していた影響により、現地通貨建てで同64.1%減、円建てで同65.6%減少しました。
- 以上から、グループ全体の新契約は同1.3%増加、為替変動要因を除けば同3.3%増加しました。
- 7ページをご覧ください。



第一生命グループの保有契約年換算保険料



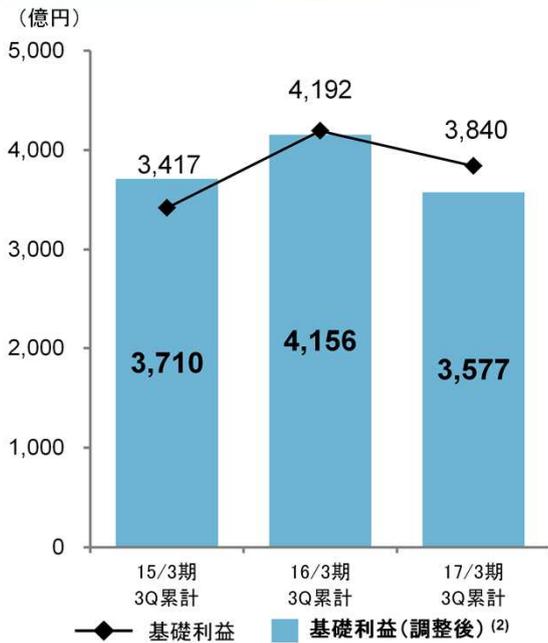
前期末比: +2.2%
(為替変動要因
除くと+4.9%)

(1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。15/3末の実績は完全子会社化(2015年2月1日)時点の数値を記載しています。
 (2) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。15/3末、16/3末、16/12末の実績はそれぞれ155億円、203億円、219億円です。
 (3) ネオファースト生命の15/3末、16/3末、16/12末の実績は、それぞれ37億円、39億円、47億円です。

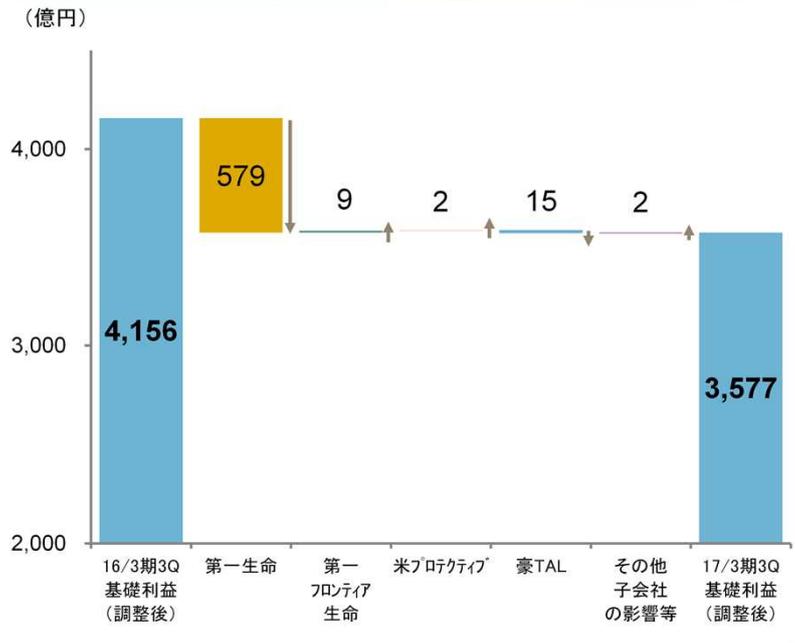
- 保有契約に関する年換算保険料の動向についてご説明します。
- グループ全体の保有契約は前期末比2.2%増、為替変動要因を除けば同4.9%増とプラス成長を維持しています。
- 8ページをご覧ください。



基礎利益 (1)(2)



基礎利益(調整後)の変動要因 (1)(2)

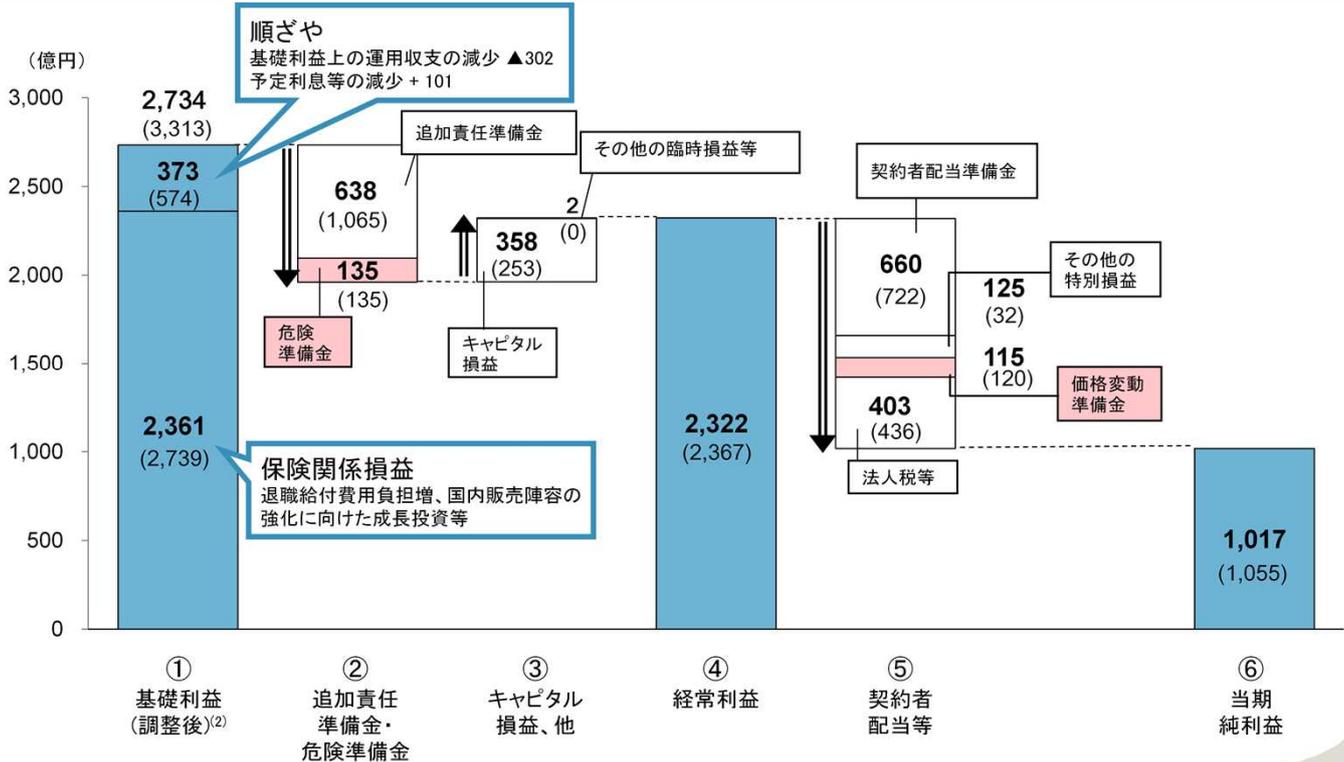


(1) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命(15/3期3Q累計は7-12月の数値)の基礎利益、米プロテクトイブの税引前営業利益(16/3期3Q累計、17/3期3Q累計のみ)、TALの修正利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺
 (2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額。ただし、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く

- 第一生命グループの基礎利益についてご説明します。
- 棒グラフでお示ししている調整後の基礎利益は、前年同期の4,156億円から3,577億円へと、大幅に減少しました。
- これは、右のグラフでお示したとおり、第一生命の基礎利益が減少したためです。この点について、次のページで詳しくご説明します。
- 9ページをご覧ください。

第一生命業績 - 当期純利益の状況 (1)

第一生命の基礎利益の通期予想は、参考データ(P27)をご覧ください。



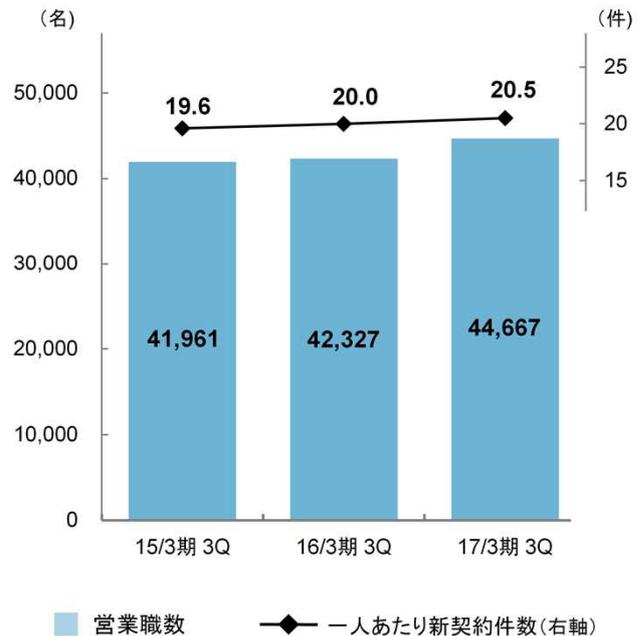
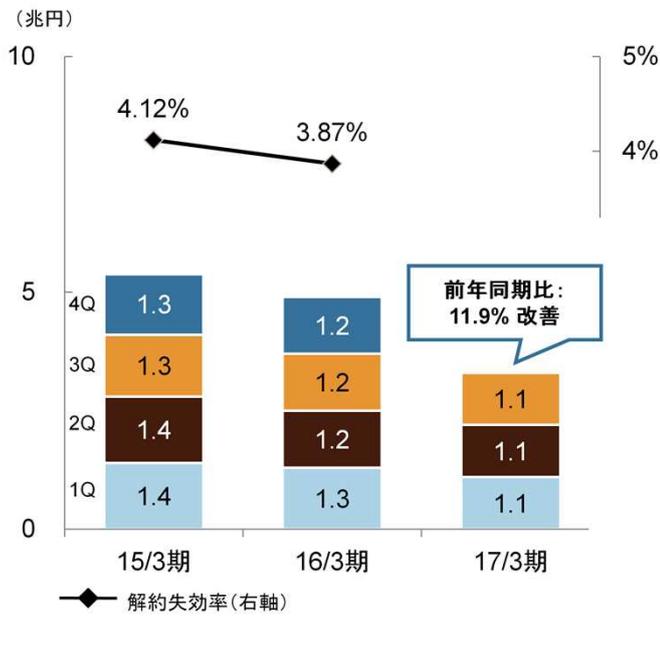
(1) 前年同期の数値を()内に記載しています。

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額。ただし、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く。

- 第一生命の基礎利益のうち、順ざやが前年同期比で減少したのは、主に上半期の円高によって、外貨建資産からの利息配当金が円ベースで減少したことが理由です。保険関係損益の減少については、金利低下に伴い退職給付費用の負担が増加したことや、国内販売チャネル体制の強化に向けた先行投資として、営業職数を増加させるなどした結果です。
- 基礎利益以外の項目では、追加責任準備金の繰入額を減少させたほか、金融派生商品損益の改善によりキャピタル損益が増加しました。しかし、基礎利益の減少を埋め合わせるにはいたらず、経常利益・純利益は微減となりました。
- 10ページをご覧ください。

解約失効高(個人保険・個人年金)

営業職数および生産性⁽¹⁾⁽²⁾



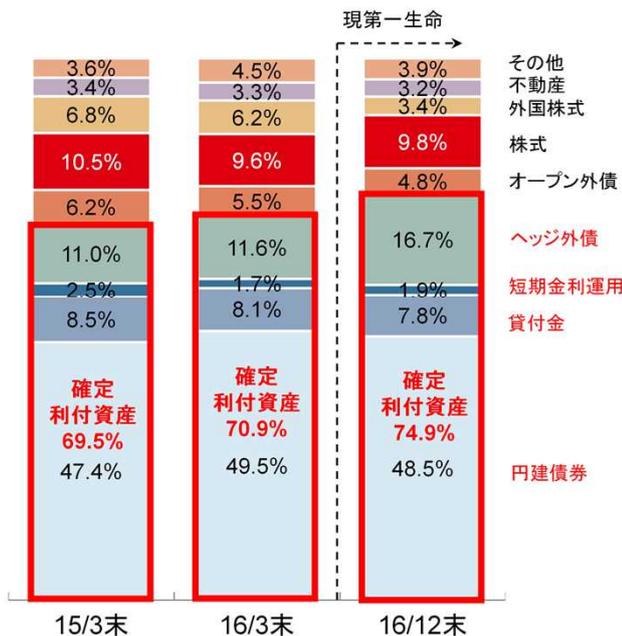
(1) 営業職については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における新契約件数(転換含む)を分子、各期間の営業職数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。

- 左のグラフは第一生命の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。解約失効高は前年同期比で11.9%の改善となりました。
- 右のグラフは営業職数とその生産性の推移を示しています。
- 第一生命では、中核事業の持続的な成長に向けて営業職チャネルに積極的な投資を行っており、営業職数は増加しています。新契約件数も増加しており、生産性指標が改善しました。
- 11ページをご覧ください。



資産の構成(一般勘定) (1) (2)

国内株式の簿価 (3)



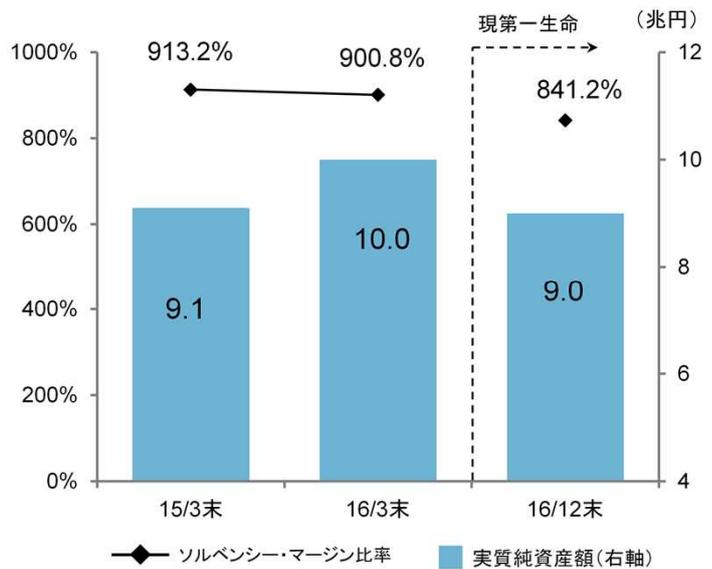
(1) 2016年10月1日付の持株会社体制移行に伴い、旧第一生命の傘下にあった子会社・関連会社株式の一部は第一生命ホールディングスに残置しております。上記は現第一生命の資産の構成を示しております。
 (2) 貸借対照表価額ベース
 (3) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)。
 (4) 純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)。

- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフは第一生命の一般勘定資産の構成比を示しています。2016年10月に実施した持株会社体制への移行に伴って会社分割した際に、従来の第一生命が保有していた国内外の子会社等の株式を第一生命ホールディングスへ残したため、資産構成は不連続となっています。
- 当第3四半期累計では、国内で低金利が継続したことを踏まえ、ヘッジ外債への配分を前期末比で増やしました。
- 国内株式の構成比は、時価の変動を主な要因として増加しました。右のグラフでは、子会社等の株式を除く国内株式の簿価残高を、特定投資株式とそれ以外に分けてお示ししています。当四半期末の株式残高は、上半期に実行した成長銘柄への投資により、前期末比で増加しました。
- 12ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)

	現第一生命		増減
	16/3末	16/12末	
有価証券	62,120	57,403	△4,716
国内債券	40,229	35,029	△5,200
国内株式	13,128	16,106	+2,978
外国債券	6,787	4,750	△2,036
外国株式	1,720	1,115	△605
不動産	1,303	1,615	+312
その他共計	63,346	58,741	△4,604

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



◆ ソルベンシー・マージン比率 ■ 実質純資産額(右軸)

<参考> 第一生命ホールディングスの
連結ソルベンシー・マージン比率:
2016年12月末 765.9%

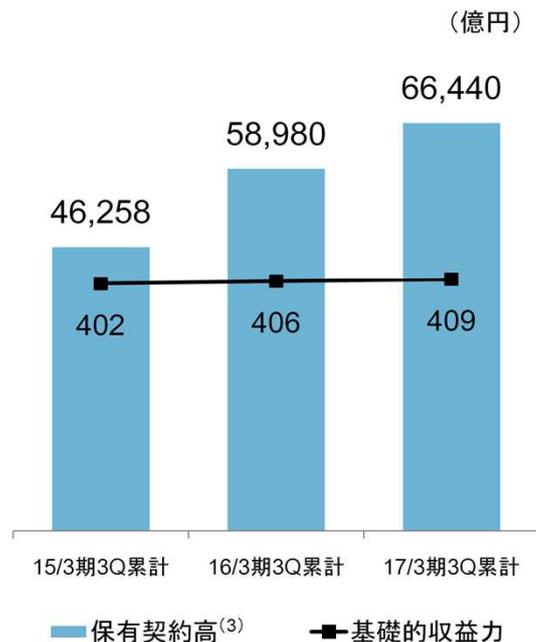
- 第一生命の健全性についてご説明します。
- 左の表では一般勘定各資産の含み益の変化を示していますが、こちらにも、第一生命ホールディングスに残した子会社等の株式が対象資産から外れているため、データは不連続となっています。
- その上で、前期末と比較しますと、国内外での金利上昇により、国内債券と外国債券の含み益が減少しましたが、国内株式の含み益の増加が一部相殺し、一般勘定資産全体で含み益は約4,600億円の減少となりました。
- 右のグラフで示した現第一生命のソルベンシー・マージン比率は、841.2%と高い水準になりました。前期末と比較すると減少していますが、これは持株会社体制へ移行する際に、株主資本を第一生命ホールディングスに残したためであり、こちらのデータも不連続となっています。
- 13ページをご覧ください。

収支の状況

	(億円)	
	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計
経常収益	15,203	8,669
うち保険料等収入 ⁽¹⁾	14,517	7,238
うち変額商品	1,278	387
うち円建定額商品	2,550	207
うち外貨建定額商品	9,153	5,704
うち資産運用収益	685	1,430
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	-	-
経常費用	14,704	8,265
うち責任準備金等繰入額(△は戻入)	8,505	3,060
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(B)	167	△ 5
うち危険準備金繰入額(C)	△ 53	△ 8
うち資産運用費用	1,427	541
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(D)	57	275
うち市場価格調整(MVA)に係る損益(E) ⁽²⁾	△ 198	△ 189
経常利益(△は損失)	498	403
純利益(△は損失)	434	337
純利益 - (A) + (B) + (C) + (D) + (E)	406	409

(1) 定額部分と変額部分を組み合わせた商品は定額商品に分類
 (2) 市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、資産運用損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く。

保有契約高と基礎的収益力



(3) 保有契約高は各期間の末日時点

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 第3四半期累計では、金融市場の大きな変動を受けて保険販売が減速し、保険料等収入は前年同期比で大幅に減少しました。
- 最低保証リスクに係る責任準備金は、第3四半期の株高・円安の影響で運用収益が改善したことを受けて、戻し入れとなりましたが、昨年度に比べ市場変動が激しかったためヘッジ関連費用が増加し、ヘッジ考慮後では損益が悪化しました。
- 以上のことから、経常利益・純利益は前年同期比で減少しました。ただし、上半期決算からは大幅な改善となりました。この理由は、金利上昇により主に市場価格調整に係る責任準備金が戻し入れとなったためです。
- 右のグラフでお示した基礎的収益力は、会計利益に市場変動要因を調整した収益指標です。基礎的収益力は、保有契約の積み上がりに伴い増加しました。
- 14ページをご覧ください。

主要業績 (1)(2)

(百万米ドル)

	16/3期 3Q累計 (2-9月)	17/3期 3Q累計 (1-9月)	
	実績	予算	実績
生保事業	29.6	58.3	36.9
買収事業	132.9	172.6	184.0
年金事業	133.3	166.5	164.1
ステーブルバリュー事業	28.2	21.5	44.3
アセットプロテクション事業	15.2	18.7	16.2
コーホレート	△ 16.8	△ 49.6	△ 60.2
税引前営業利益	322.6	388.0	385.5
キャピタル損益(運用収支)	△ 150.0	n.a.	183.3
キャピタル損益(金融派生商品損益)	104.3	n.a.	△ 95.3
法人税等	△ 89.8	△ 132.0	△ 152.8
当期利益	187.1	224.6	320.7

<参考>

	15/9末	16/9末
為替レート(米ドル)	119.96	n.a.

- (1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。16/3期3Q累計の実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年9月までの8ヶ月間の実績です。
 (2) 税引前営業利益(Pre-tax Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

セグメント別 予算・実績比較

【生保事業】

- ・ 予算対比で危険差益が悪化したこと、責任準備金の見直しを行ったことにより、予算未達

【買収事業】

- ・ 予算対比で運用収支や事業費が良好だったが、危険差益の悪化により予算達成ペース

【年金事業】

- ・ 予算対比で変額年金に係るフィー収入が悪化した、危険差益は良好であり予算並の進捗

【ステーブルバリュー事業】

- ・ 予算対比で良好な利ざやと受託残高を確保したことで大幅に予算達成ペース

【アセットプロテクション事業】

- ・ 一部の商品において、予算対比で支払が増加し、予算未達ペース

- プロテクティブの状況についてご説明します。
- 税引前営業利益は、買収事業とステーブルバリュー事業が予算達成ペースで進捗する一方、生保事業が予算未達ペースとなり、全体として予算並みの進捗となりました。
- また、良好なキャピタル損益も業績に貢献していますが、同社が契約する再保険会社に帰属すべき利益が一部含まれております。
- こうしたことで、純利益は通期予算に対して良好に進捗しました。また、前年同期が8ヶ月であるため単純比較はできないものの、前年同期比でも大幅な伸びとなりました。
- 15ページをご覧ください。



主要業績

(百万豪ドル)

	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	前年 同期比
経常収益 (2)	2,378	2,718	+14%
うち保険料等収入 (2)	2,229	2,473	+11%
経常利益 (2)	128	159	+24%
純利益(A) (2)	99	113	+13%
修正額(B)	40	20	
うち負債割引率の変化	2	1	
うち償却負担	15	15	
その他	23	4	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	140	133	△5%

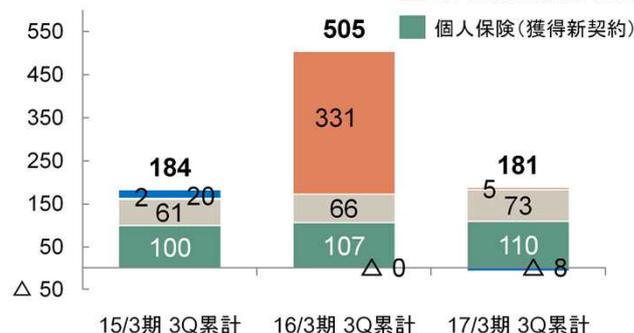
<参考>

	15/12末	16/12末
為替レート(豪ドル)	87.92円	84.36円

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)。

新契約年換算保険料

(百万豪ドル)



保有契約年換算保険料

(百万豪ドル)



- TALの状況についてご説明します。
- 右上の、豪ドル建ての新契約年換算保険料は、個人保険で前年同期比6%増となりました。一方、団体保険では、昨年度第3四半期に大型契約を獲得していたため、前年同期比で減少となりました。保有契約年換算保険料は前期末比で1%の減少となりました。
- 保険料等収入は、昨年度獲得した団体契約の影響により、前年同期比11%増となりました。しかし、個人保険において保険金等の支払いの状況が悪化し、修正利益は同5%減となりました。
- 一方、会計上の利益は、資産運用収支が前年同期比で良好であったため13%増加しました。
- 16ページをご覧ください。



- 通期予想に対して高い進捗となったが、内外の金融環境の不透明感は強まっているため、通期業績予想は据え置き。

	(億円)			(参考)
	16/3期	17/3期(予) ※2016/11/14 発表予想	増減	17/3期(予) ※2016/5/13 発表予想
連結経常収益	73,339	62,770	△ 10,569	64,600
第一生命単体 ⁽¹⁾	42,657	37,960	△ 4,697	37,960
第一フロンティア生命	19,675	12,180	△ 7,495	14,010
プロテクトティブ(百万米ドル)	6,784	8,460	+ 1,675	8,460
TAL(百万豪ドル)	3,231	3,900	+ 668	3,900
連結経常利益	4,181	4,060	△ 121	4,060
第一生命単体	3,442	3,240	△ 202	3,240
第一フロンティア生命	296	210	△ 86	210
プロテクトティブ(百万米ドル)	399	460	+ 60	460
TAL(百万豪ドル)	152	180	+ 27	180
連結純利益⁽²⁾	1,785	1,970	+ 184	1,970
第一生命単体	1,291	1,330	+ 38	1,330
第一フロンティア生命	243	150	△ 93	150
プロテクトティブ(百万米ドル)	268	300	+ 31	300
TAL(百万豪ドル)	119	120	+ 0	120
1株当たり配当金	35円	40円	+5円	40円
(参考: 基礎利益)				
第一生命グループ	5,351	4,600程度	△ 751	5,000程度
第一生命単体	4,654	3,500程度	△ 1,154	3,800程度

(1) 持株会社体制移行に伴う第一生命の考え方につきましては、詳しくは28ページをご覧ください。
 (2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

- 続いて第一生命グループの2017年3月期連結業績予想についてご説明します。
- 冒頭でお示した通り、第3四半期累計の業績は、通期業績予想に対して良好な進捗となりましたが、これには一時的な要因を含んでいます。また、米国の新政権による施政方針を巡り不透明感が強まっており、内外の金融環境は今後も大きく変動する可能性が高いと考えています。引き続き、金融環境がグループ損益にどのような影響を与えるかを慎重に見守る必要があり、通期業績予想は据え置きとしています。
- 17ページをご覧ください。



- 2016年12月末のグループEEV(試算値)は、主に株高と金利上昇の影響により、9月末比で増加。

第一生命グループ(億円、試算値)

	16/9末	16/12末	増減
グループEEV	44,231	約51,100	約+6,900
対象事業(covers business)のEEV ⁽¹⁾	44,231	約53,100	約+8,900
修正純資産	62,283	約61,900	約△400
保有契約価値	△ 18,052	約△8,800	約+9,300
対象事業以外の純資産等に係る調整額 ⁽²⁾	-	約△2,000	約△2,000

2016年10月1日付けの持株会社体制移行に伴い、グループEEVの表示を変更(グループEEVの額には影響なし)

- (1) 対象事業(covers business)とは、EEV原則で定められているEV手法を適用した範囲のことで、EEV原則では、対象事業のEEVを開示することを求めています。第一生命グループでは、従前は、第一生命グループが行うすべての事業を対象事業としていましたが、2016年10月1日付けの持株会社体制移行後は、生命保険事業を行う子会社(第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクトタイプ、TAL、第一生命ベトナムおよびこれらの子会社)を対象事業としました。
- (2) 「対象事業以外の純資産等に係る調整額」には、2016年12月末における第一生命ホールディングスの単体貸借対照表の純資産の部(12,087億円)、第一生命ホールディングスの生命保険事業子会社6社に対する出資に係る調整(▲14,577億円)、第一生命ホールディングスが保有する資産・負債を時価評価する調整が含まれます。

- 2016年12月末の保有契約をベースに12月末の経済前提を使ったグループ・エンベディッド・バリューの試算を行っています。
- 持株会社体制への移行に伴い、今回より国内外の生保子会社をEV計算の対象事業とし、そのEVを表示するとともに、対象事業以外のグループ会社についてその純資産等に係る調整を加え、グループEEVとしています。ただし、これは表示方法の変更であり、グループEEVの額には影響ありません。
- 2016年12月末のグループEEVは約5.1兆円となりました。内外株価の上昇、国内金利の上昇や円安の影響により、EVは9月末に比べ約6,900億円増加しました。
- 18ページをご覧ください。



第一生命(億円、試算値) 現第一生命

	16/9末	16/12末	増減
EEV	42,588	約41,900	約△700
修正純資産	64,620	約55,600	約△9,100
保有契約価値	△ 22,032	約△13,700	約+8,400

第一フロンティア生命(億円、試算値)

	16/9末	16/12末	増減
EEV	3,085	約3,200	約+100
修正純資産	2,258	約1,200	約△1,000
保有契約価値	827	約2,000	約+1,100

持株会社体制への移行に伴い、株主資本を第一生命ホールディングスへ残したことによる減少であり、実質的には増加。

プロテクティブ(億円、試算値)

	16/6末	16/9末	増減
EEV	5,220	約5,100	約△100
修正純資産	3,463	約3,700	約+200
保有契約価値	1,756	約1,400	約△400

16/6末EEV: 16/6末の為替レート(1米ドル=102.91円)を使用
16/9末EEV: 16/9末の為替レート(1米ドル=101.12円)を使用

TAL(億円、試算値)

	16/9末	16/12末	増減
EEV	2,515	約2,700	約+200
修正純資産	1,276	約1,400	約+200
保有契約価値	1,238	約1,200	約+0

16/9末EEV: 16/9末の為替レート(1豪ドル=77.04円)を使用
16/12末EEV: 16/12末の為替レート(1豪ドル=84.36円)を使用

プロテクティブ(百万米ドル、試算値)

	16/6末	16/9末	増減
EEV	5,072	約5,000	約△100
修正純資産	3,365	約3,600	約+300
保有契約価値	1,707	約1,400	約△300

注1: ネオファースト生命についてはEEVの再測定を行わず、2016年9月末のEEVと同額としています。

注2: 第一生命ベトナムについてはEVの再測定は行わず、現地通貨ベースで2016年6月末のEVと同額としています。

TAL(百万豪ドル、試算値)

	16/9末	16/12末	増減
EEV	3,265	約3,200	約△100
修正純資産	1,657	約1,700	約+0
保有契約価値	1,608	約1,500	約△100

- グループ各社のEVをお示ししています。
- 第一生命のEVが減少していますが、これは持株会社体制への移行に伴い、株主資本を第一生命ホールディングスへ残したためであり、この要因を除けばEVは増加しています。
- 以上で私からの説明を終了させていただきます。

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (3)

資産・負債の対応を考慮したEEVの再分類



Dai-ichi Life Holdings

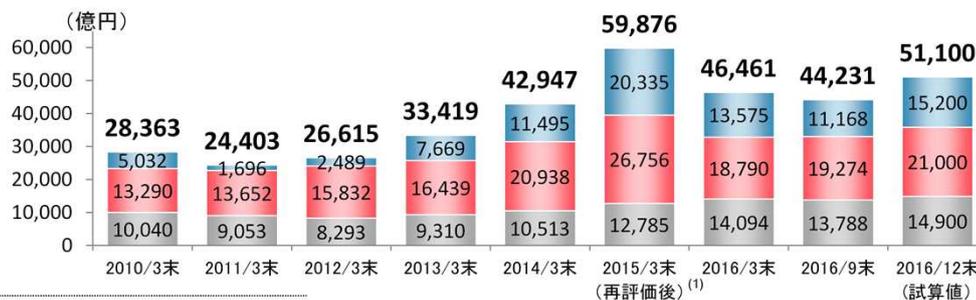
第一生命グループのEEV(億円、試算値)

	16/9末	16/12末	増減
EEV	44,231	約51,100	約+6,900
対象事業のEEV	44,231	約53,100	約+8,900
修正純資産	62,283	約61,900	約△400
保有契約価値	△ 18,052	約△8,800	約+9,300
対象事業以外の調整額	-	約△2,000	約△2,000

資産・負債の対応を考慮した再分類

	16/9末	16/12末
EEV	44,231	約51,100
確定利付資産以外の含み損益等 ⁽²⁾	11,168	約15,200
保有契約価値+確定利付資産の含み損益等 ⁽³⁾	19,274	約21,000
純資産等+負債中の内部留保 ⁽⁴⁾	13,788	約14,900

第一生命グループのEEV推移【資産・負債の対応を考慮した再分類】



保有契約価値+含み損益等
: 保険契約の保有により生じる将来利益

確定利付資産以外の含み損益等⁽²⁾

保有契約価値+確定利付資産の含み損益等⁽³⁾

純資産等
+ 負債中の内部留保⁽⁴⁾
: 実現利益の累積額に相当

(1) 2015/3末のEEVは、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。
 (2) 第一生命が保有する確定利付資産以外の資産(株式、外貨建債券(ヘッジ外債を除く)、不動産等)の含み損益等の額を計上しています。
 (3) 保有契約価値に、第一生命の確定利付資産ならびに第一フロンティア生命およびネオファースト生命の資産の含み損益等を加算・調整した額を計上しています。本項目は、未実現利益のうち、主に金利の影響を受ける部分であり、金利水準等の変化に応じた、保有契約価値および確定利付資産の含み損益等の変動額は、お互いに相殺関係にあります。
 (4) 対象事業のEEVの修正純資産から含み損益を除いた額と対象事業以外の純資産等に係る調整を計上しています。



参考データ



損益計算書 (1) (2)

現第一生命
(億円)

	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	増減
経常収益	31,038	29,591	△1,446
保険料等収入	21,009	18,937	△2,072
資産運用収益	7,786	8,011	+224
うち利息・配当金等収入	5,891	5,644	△247
うち有価証券売却益	1,517	1,553	+35
うち特別勘定資産運用益	54	508	+453
その他経常収益	2,242	2,642	+400
経常費用	28,671	27,268	△1,402
うち保険金等支払金	20,060	17,180	△2,880
うち責任準備金等繰入額	1,318	2,451	+1,132
うち資産運用費用	1,796	1,762	△34
うち有価証券売却損	432	666	+233
うち有価証券評価損	13	107	+94
うち金融派生商品費用	445	4	△441
うち為替差損	392	452	+60
うち事業費	2,959	3,087	+128
経常利益	2,367	2,322	△44
特別利益	2	46	+44
特別損失	154	287	+132
契約者配当準備金繰入額	722	660	△61
税引前純利益	1,492	1,421	△70
法人税等合計	436	403	△33
純利益	1,055	1,017	△37

貸借対照表(2)

現第一生命
(億円)

	16/3末	16/12末	増減
資産の部合計	358,949	361,371	+2,421
うち現預金・コール	6,452	6,964	+512
うち買入金銭債権	2,332	2,087	△244
うち有価証券	302,501	307,162	+4,660
うち貸付金	28,260	27,456	△804
うち有形固定資産	11,641	11,508	△132
負債の部合計	327,917	336,610	+8,692
うち保険契約準備金	306,352	308,186	+1,834
うち責任準備金	299,842	302,230	+2,388
うち危険準備金	5,760	5,895	+135
うち社債	2,157	4,762	+2,605
うちその他負債	10,950	14,925	+3,974
うち退職給付引当金	3,779	3,860	+80
うち価格変動準備金	1,484	1,599	+115
うち繰延税金負債	1,386	1,420	+33
純資産の部合計	31,031	24,761	△6,270
うち株主資本合計	11,755	5,473	△6,282
うち評価・換算差額等合計	19,266	19,287	+20
うちその他有価証券評価差額金	19,469	19,785	+316
うち土地再評価差額金	△164	△190	△26

- (1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、
経常利益に影響するものではありません。
- (2) 持株会社体制移行に伴う第一生命の考え方につきましては、詳しくは28ページを
ご覧ください。



損益計算書

(億円)

	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	増減
経常収益	15,203	8,669	△6,534
うち保険料等収入	14,517	7,238	△7,279
うち資産運用収益	685	1,430	+744
経常費用	14,704	8,265	△6,439
うち保険金等支払金	3,942	4,215	+272
うち責任準備金等繰入額	8,505	3,060	△5,445
うち資産運用費用	1,427	541	△886
うち為替差損	727	135	△592
うち事業費	743	404	△338
経常利益	498	403	△94
特別損益	△20	△24	△3
税引前純利益	477	378	△98
法人税等合計	43	41	△2
純利益	434	337	△96

貸借対照表

(億円)

	16/3末	16/12末	増減
資産の部合計	61,322	65,540	+4,217
うち現預金	1,184	1,156	△27
うち有価証券	58,365	60,641	+2,276
負債の部合計	60,463	64,649	+4,186
うち保険契約準備金	59,481	62,541	+3,060
うち責任準備金	59,411	62,468	+3,056
うち危険準備金	1,146	1,138	△8
純資産の部合計	859	891	+31
うち株主資本合計	427	765	+337
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,422	△1,084	+337

参考データ - 米プロテクティブ財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書 (1)(2)

(百万米ドル)

	16/3期 3Q累計 (2-9月)	17/3期 3Q累計 (1-9月)
経常収益	4,910	6,723
保険料等収入	3,373	3,973
資産運用収益	1,247	2,400
その他経常収益	289	349
経常費用	4,633	6,249
保険金等支払金	2,910	3,540
責任準備金等繰入額	464	1,609
資産運用費用	605	348
事業費	498	581
その他経常費用	155	168
経常利益	276	474
法人税等合計	89	152
純利益	187	320

貸借対照表 (1)(2)

(百万米ドル)

	15/12末	16/9末	増減
資産の部合計	68,493	76,154	+7,660
うち現預金	397	623	+225
うち有価証券	50,843	57,406	+6,562
うち貸付金	7,360	7,571	+211
うち有形固定資産	113	112	△1
うち無形固定資産	2,663	2,790	+127
うちのれん	732	732	-
うちその他の無形固定資産	1,915	2,041	+125
うち再保険貸	165	221	+55
負債の部合計	63,912	70,134	+6,221
うち保険契約準備金	57,893	60,870	+2,976
うち再保険借	244	242	△1
うち社債	2,238	4,244	+2,006
うちその他負債	2,409	2,810	+401
純資産の部合計	4,581	6,020	+1,439
株主資本合計	5,822	6,053	+231
その他の包括利益累計額合計	△1,241	△33	+1,207

(1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。

(2) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。16/3期3Qの実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年9月までの8ヶ月間の実績です。



損益計算書 (1)(2)

(百万豪ドル)

	16/3期 3Q累計	17/3期 3Q累計	増減
経常収益	2,378	2,718	+340
保険料等収入	2,229	2,473	+244
資産運用収益	21	183	+161
その他経常収益	127	61	△65
経常費用	2,249	2,559	+310
保険金等支払金	1,440	1,690	+250
責任準備金等繰入額	220	246	+26
資産運用費用	47	32	△15
事業費	459	504	+44
その他経常費用	81	85	+4
経常利益	128	159	+30
法人税等合計	29	46	+17
純利益	99	113	+13
修正利益 (Underlying profit)	140	133	△6

貸借対照表 (1)(2)

(百万豪ドル)

	16/3末	16/12末	増減
資産の部合計	7,043	7,247	+203
現預金	1,358	1,430	+72
有価証券	2,859	2,892	+33
有形固定資産	0	0	△0
無形固定資産	1,207	1,185	△21
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	420	399	△21
再保険貸	148	197	+49
その他資産	1,470	1,540	+70
負債の部合計	4,890	4,991	+100
保険契約準備金	3,491	3,623	+132
再保険借	332	308	△23
その他負債	978	970	△7
繰延税金負債	89	88	△0
純資産の部合計	2,152	2,255	+103
株主資本合計	2,152	2,255	+103
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	522	625	+103

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値

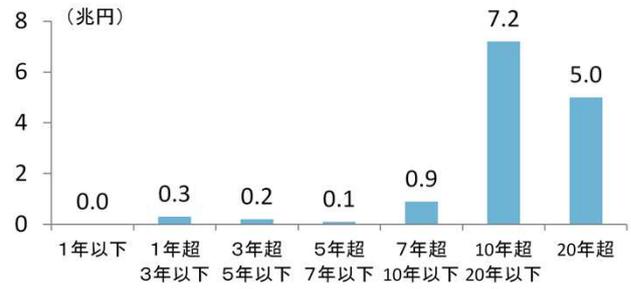
(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております (修正利益を除く)。



円建債券の内訳 (1)

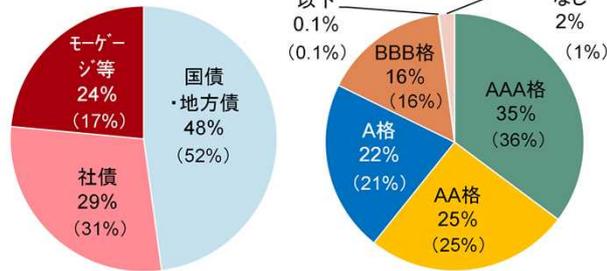


国債の残存期間別残高 (2) (2016年12月末)

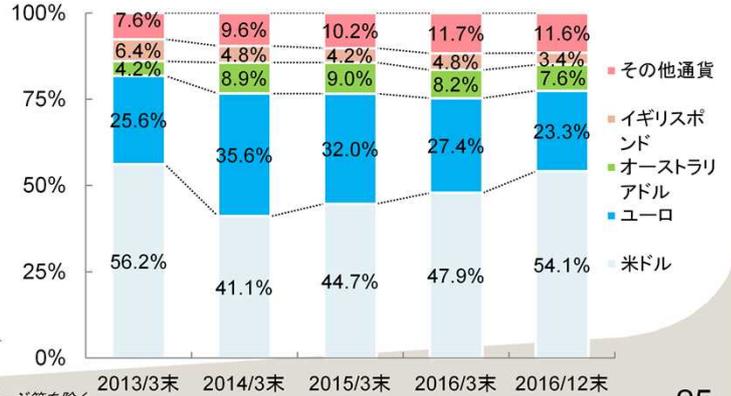


外貨建債券の内訳 (2)(3) (2016年12月末)

(括弧内:2016年3月末時点)



外貨建債券の通貨別構成 (2)



(1) 簿価ベース
 (2) 貸借対照表価額ベース
 (3) 格付けはS&P・Moody'sの2社の格付け機関による格付けの中間の評価を採用、モーゲージ等を除く



	感応度 (1)	含み損益ゼロ水準 (2)
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2016年3月末:1,700億円)	日経平均株価 ¥9,600 (2016年3月末:¥9,400)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,700億円の増減※ (2016年3月末:2,900億円) ※その他有価証券区分:300億円の増減 (2016年3月末:400億円)	10年国債利回り 1.3%※ (2016年3月末:1.3%) ※その他有価証券区分:1.4% (2016年3月末:1.4%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 190億円の増減 (2016年3月末:290億円)	ドル/円 \$1 = ¥105 (2016年3月末:¥103)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

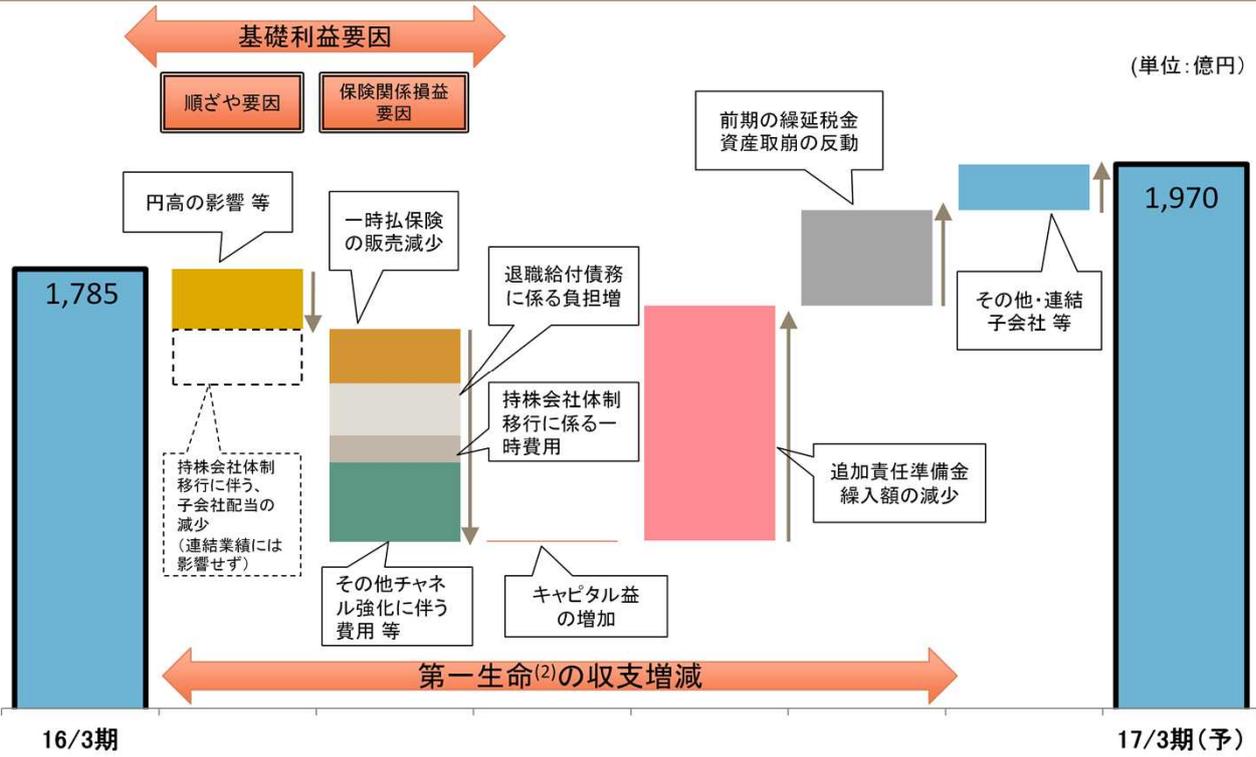
(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロとなる水準

【再掲】連結純利益⁽¹⁾の増減要因分析(一時項目の影響)



Dai-ichi Life Holdings

(単位: 億円)



(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。
 (2) 持株会社体制移行に伴う第一生命の考え方につきましては、詳しくは28ページをご覧ください。

【再掲】 持株会社体制への移行に伴う、第一生命の収支状況の開示

- 当プレゼンテーション資料で示している第一生命の2017年3月期業績予想は、持株会社体制移行前の第一生命単体(下図①)の上期業績予想に、持株会社体制移行後の第一生命(同④)の下期業績予想を合算したものです。第一生命分割準備株式会社(同②)が計上する損益は限定的です。
- 持株会社体制移行前の第一生命単体の利息配当金等収入の一部には子会社・関連会社から支払われた配当が含まれています。持株会社体制への移行に伴い、第一生命ホールディングス株式会社傘下となった第一生命をはじめとする子会社・関連会社の配当は、第一生命ホールディングスの利息配当金等収入として計上されます。その分第一生命の収益は減少しますが、連結収支に対する影響はありません。
- 第一生命ホールディングスの収支は、経常収益が子会社からの配当収入や経営管理料が主要項目となり、経常費用は持株会社運営費用が主要項目となります。第一生命ホールディングスの17年3月期の業績予想は(下図③)で示した通りです。
- なお、上場会社単体としての2017年3月期業績予想につきましては、29ページをご覧ください。



(億円)		(億円)		(億円)		(億円)	
第一生命単体 2017年3月期 業績予想		【旧】第一生命(保険会社)① 2016年4月1日～2016年9月30日		【現】第一生命(保険会社)④ 2016年10月1日～2017年3月31日		第一生命ホールディングス (持株会社)③ 2016年10月1日～2017年3月31日	
経常収益	37,960	=	19,290	+	18,670	=	180
経常利益	3,240		1,660		1,570		120
当期利益	1,330		680		650		120

【再掲】 参考データ - 上場会社単体としての2017年3月期業績予想



Dai-ichi Life Holdings

- 当社は2016年10月1日付で持株会社体制へ移行しました。持株会社体制移行前は第一生命として上場しておりましたが、持株会社体制移行後は「第一生命ホールディングス株式会社」に商号変更の上、上場を継続しております。
- そのため、上場会社単体としての2017年3月期業績予想につきましては、持株会社体制移行前の第一生命単体①の上期業績予想に第一生命ホールディングス③の業績予想を合算した数値となります。



(億円)		(億円)		(億円)	
上場会社単体 2017年3月期 業績予想		【旧】第一生命(保険会社)① 2016年4月1日～2016年9月30日	+	第一生命ホールディングス (持株会社)③ 2016年10月1日～2017年3月31日	
経常収益	19,470	19,290		180	
経常利益	1,790	1,660		120	
当期利益	810	680		120	



本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社
経営企画ユニット IRグループ
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。